

67 下伊那農業高等学校 平成27年度 下伊那農業高等学校 評価表（最終評価） 評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

評価項目	評価の観点	評価のまとめ	評価
農業教育を充実させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の必要性や素晴らしさを生徒に伝えることができたか。 ・エコロジカル・アグリハイスクール宣言にみる5つのアクション、10の具体的実践について新たな取り組みができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地域へ出て活動する機会が年々増加しており、地域行政や団体からの大きくなっていると感じる。 	A
資格取得を充実するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒ひとり一人が二種類以上の資格取得に取り組むことができるように指導することができたか。 ・時間外の講習会や長期休業中の補習を充実させ、合格率8割を目指すと共に、生徒にとって満足いく成果が得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝・放課後の補習授業も数多く行われ、熱心に参加する生徒の姿が見られた。特に毒物劇物取扱者試験においては、合格率100%の結果を残した。 ・全体として昨年度より約3割増しの資格取得数と成った。今後も、生徒が積極的に資格試験に挑戦できる環境作りや指導を継続する。 	A
学習意欲を向上させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業など、授業内容を工夫し実践することができたか。 ・生徒にとって分かりやすい授業を実践することができたか。 ・また、理解できない生徒に対して事後指導がしっかりできたか。 ・年間を通して曜日のバランスを考え、授業時間数を確保することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果を高めるための事前・事後学習のもと、校外実習・外部講師による授業実践ができた。 ・匿名を担保した授業評価の導入も2年目となり、評価を踏まえた授業実践を展開し生徒に還元できた。 ・習熟度別少人数講座で授業をすることで、きめ細かな指導を心掛けた。また、テスト前にポイントを絞って補習を行い基礎学力の向上に努めた。 	A
進路希望を実現させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒の実態に合った計画的指導ができたか。 ・進路が多様化する生徒に対し情報提供が十分できたか。 ・進学希望者に対する教科補習が十分できたか。 ・生徒が希望する進路を実現することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報を取捨選択しながら、生徒にあった指導ができた。 ・進学対象の朝補習および英検対策用の補習を行い、学力向上・資格取得に向けての指導を行ったが、教科と進路がリンクした補習体制づくりが課題である。 ・就職希望者は全員内定。進学希望者も国公立大学2名を含め希望を実現できた。 	A
地域を理解し、地域との連携を深めるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に参加し、活動した取り組みであったか。 ・地域の文化を取り入れた内容の活動を行い、地域文化を理解させることができたか。 ・実施した取り組みが、相手や地域の理解と評価を得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業において見学・就学体験・販売実習等地域の方と交流し、地域の方から学ぶ機会が多数設けられた。 ・積極的に地域主催の諸行事に参加・協力ができた。 	A
基本的な生活習慣を確立するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「身だしなみ」をきちんとする指導の実践ができたか。 ・問題行動を未然に防ぐ予防的指導ができたか。 ・集会の時は迅速に集合・整列し、整然とした集会を実施することができたか。 ・気持ちよい挨拶を習慣づけることができたか。 ・校内外の清掃活動を通して、ゴミの分別を徹底させ、リサイクルの必要性について認識させることができたか。 ・時間のけじめをつけさせ、休み時間の有効活用によるスムーズな授業開始や遅刻をなくす指導ができたか。 ・いじめを許さない学校作りを進め、生徒が発する小さなサインを見逃すことのない指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機会を捉えた身だしなみ検査を実施し、一定の成果を得ることができた。女子スカート丈に関しては、徹底がはかれず次年度への課題である。 ・全職員による校内外の巡回指導やSHR・全校集会時の呼びかけを実施。「暴言」「現金盗難」等の問題が発生した。引き続き未然防止の対策に取り組みたい。 ・教務・担任の先生方の指導で迅速に集合整列ができ、整然と集会を行うことができた。 ・生活委員中心の挨拶運動や先生方の指導で多くの生徒が挨拶できるようになっている。社会に出て活躍できる人材育成のためにも、引き続き全校で取り組んでいく。 ・授業時や清掃時を利用、当地域のゴミ処理法を指導した上で、ゴミの分別やリサイクルの必要性を徹底できた。今後も継続したい。 ・授業開始前に教室に入り遅刻させない指導を徹底することができた。ただし、朝の遅刻の常態化した生徒も見られるので、遅刻カードの利用によりさらに指導の徹底が必要である。 ・あらゆる場面でいじめを許さない学校であることを生徒に徹底したため、大きな問題はなかった。今年度は特別支援コーディネーターを中心に今まで以上に生徒相談室を充実したため、ネット上での書き込み等で傷ついた生徒の心のケアに対応することができた。 	B
課外活動を充実するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が課外活動に積極的に参加し、活動することができたか。 ・個々の生徒が目標とする成果をあげることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は全員何らかの班活動に加入するよう指導している。学校全体としても多くの生徒が頑張っている。 	A
安全教育を推進するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育に対する研修の機会を設け、それに参加することができたか。 ・あらゆる場面で、生徒の安全を意識した教育活動を実践することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AED講習会の生徒・職員への実施できた。 ・交通安全週間にあわせての交通安全委員による啓発活動を実施できた。 	A